



# 俳句TVミニ講座 入門編

## 第1章 俳句の基礎



ここでは俳句を詠むための基礎を学びます。

A group of four diverse students are sitting around a table in a library, engaged in a study session. They are looking at a laptop and some papers. The background is filled with bookshelves. A semi-transparent blue overlay is on the left side of the image, and a semi-transparent red overlay is at the bottom left.

# 第1章 ～俳句の基礎～

第1章では、俳句の基礎として3つの柱を立てて説明してゆきます。



3つの柱とは

「凝縮性」「具象性」「普遍性」

この三本柱が俳句の基本です。

# 第1章 ～俳句の基礎～ No 1 凝縮性

俳句の三本柱の一つ「凝縮性」は俳句の基本の中でも、肝心かなめの柱です。

# 凝縮性とは？

作者の想いを十七文字十七音に表現すること。**5・7・5**のことです。

小説や詩などのような文章は、読み始めてから終わるまでにある程度の時間が掛かります。ところが、俳句はほんの数秒間で読み終えて仕舞うのです。つまり、時間を超越した十七文字十七音だけに凝縮された短い一瞬のドラマです。

## 例句

雪だるま星のおしゃべりぺちやくちやと  
松本たかし

ゆきだるま 5音    ほしのおしゃべり 7音    ぺちやくちやと 5音    =17音

## 句の解釈

季語は「雪だるま」冬。

雪だるまに視点が絞られていて、夜空の星の下、白い雪だるまの風景が目浮かびます。





それでは次回は～俳句の基礎～  
No 2「具象性」です。  
お楽しみに！